

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【公表番号】特表2005-535029(P2005-535029A)

【公表日】平成17年11月17日(2005.11.17)

【年通号数】公開・登録公報2005-045

【出願番号】特願2004-525672(P2004-525672)

【国際特許分類】

G 06 F 13/14 (2006.01)

【F I】

G 06 F 13/14 3 3 0 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年4月27日(2009.4.27)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

データ処理装置のコンフィギュレーション・データを取得する方法であつて：

該データ処理装置はタイミング装置と連動し；

a) 該タイミング装置の第1モードを開始する工程；及び

b) 前記データ処理装置で第1イベントを検出する工程；

を有し；

該第1イベントは該第1モードの該開始後に発生し；

該第1イベントは該タイミング装置によって引き起こされるものであり；

更に、c) 前記データ処理装置で該第1モードの該開始と該第1イベントとの間の第1時間間隔を算定する工程；

d) 前記データ処理装置で該算定第1時間間隔と、第1時間間隔の正確な値を表す第1基準時間間隔との間の第1比較を行う工程；

I. 前記データ処理装置で、該第1比較の該結果によって、前記算定第1時間間隔と、前記第1基準時間間隔との差であるエラー値を算定する工程；

II. 該タイミング装置の第2モードを開始する工程；

III. 前記データ処理装置で第2イベントを検出する工程であつて、該第2イベントは該第2モードの該開始後に発生し、該第2イベントは該タイミング装置によって引き起こされるものである、前記検出する工程；

IV. 前記データ処理装置で、該第2モードの該開始と該第2イベントとの間の第2時間間隔を算定する工程；

V. 前記データ処理装置で、該算定第2時間間隔を、該エラー値によって調節する工程；

VI. 前記データ処理装置で、該調節第2時間間隔と第2基準時間間隔との間の第2比較を行う工程；及び

VII. 前記データ処理装置で、コンフィギュレーション・データを該第2比較の結果によって、判定する工程；

を有することを特徴とする方法。

【請求項2】

請求項1記載の方法であつて、該工程a)に後続して、更に：

期間をカウントする工程；

を有することを特徴とする方法。

【請求項 3】

請求項1記載の方法であって、該工程IIに後続して、更に：

期間をカウントする工程；

を有することを特徴とする方法。

【請求項 4】

請求項1又は3に記載の方法であって、該工程Iに後続して、更に：

コンフィギュレーション・データを該第1比較の該結果によって判定する工程；

を有することを特徴とする方法。

【請求項 5】

請求項1乃至4何れか記載の方法であって、モードが該データ処理装置に印加される電圧に応じて開始されることを特徴とする方法。

【請求項 6】

請求項1乃至4何れか記載の方法であって、イベントが該データ処理装置に印加される電圧に応じて検出されることを特徴とする方法。

【請求項 7】

請求項1乃至4何れか記載の方法であって、モードが該データ処理装置上で実行されるソフトウェアに応じて開始されることを特徴とする方法。

【請求項 8】

請求項2又は3に記載の方法であって、時間間隔が該カウント時間間隔を用いて算定されることを特徴とする方法。

【請求項 9】

請求項1乃至4何れか記載の方法であって、時間間隔がタイムスタンプを用いて算定されることを特徴とする方法。

【請求項 10】

タイミング装置と接続可能であり、請求項1乃至9何れか記載の方法を行うよう動作可能なデータ処理装置であって：

イベント信号を受信するよう動作可能な第1ポート；

請求項1乃至9何れか一項に記載の方法を実行するためのコンフィギュレーション・プログラムを記憶させるよう動作可能な非揮発性記憶機構；

算定のデータを記憶させるよう動作可能な記憶機構；及び

該コンフィギュレーション・プログラムを実行させるよう動作し得るCPU；  
を有することを特徴とするデータ処理装置。

【請求項 11】

請求項1記載のデータ処理装置であって、該第1ポートが更に、前記第1モード又は前記第2モードを開始することを前記タイミング装置に指示するためのモード表示信号を出力するよう動作可能であることを特徴とするデータ処理装置。

【請求項 12】

請求項1記載のデータ処理装置であって、更に：

前記第1モード又は前記第2モードを開始することを前記タイミング装置に指示するためのモード表示信号を出力するよう動作可能な第2ポート；

を有することを特徴とするデータ処理装置。

【請求項 13】

請求項1記載のデータ処理装置及び前記データ処理装置と接続可能なタイミング装置を備えるシステムであって、前記タイミング装置が、

前記データ処理装置の前記第1ポートに対して前記イベント信号を出力するよう動作可能な第1ポート；及び

該イベント信号を発生させるよう動作可能な回路；  
を有することを特徴とするシステム。

【請求項 14】

請求項 1 3 に記載のシステムにおいて、

前記データ処理装置の前記第1ポートは、更に、前記第1モード又は前記第2モードを開始することを前記タイミング装置に指示するためのモード表示信号を出力するよう動作可能あって、

前記タイミング装置の前記第1ポートは、前記モード表示信号を受信すること及びイベント信号を出力することが可能であり、

前記回路は、更に、前記モード表示信号の受信に応じて、且つ、前記モード表示信号の受信に後続して、前記イベント信号を発生可能である、

システム。

【請求項 1 5】

請求項 1 2 に記載のデータ処理装置及び前記データ処理装置と接続可能なタイミング装置を備えるシステムであって、前記タイミング装置は、

前記第1モード又は前記第2モードを開始することを前記タイミング装置に指示するモード表示信号を、前記データ処理装置から受信するよう動作可能な第1ポート；

前記データ処理装置の前記第1ポートに対して前記イベント信号を出力するよう動作可能な第2ポート；及び

該イベント信号を該モード表示信号に応じて、かつ、該モード表示信号に後続して、発生させるよう動作可能な回路；

を有することを特徴とするシステム。

【請求項 1 6】

請求項 1 3 乃至 1 5 何れか記載のシステムであって、該イベント信号がパルス電圧であることを特徴とするシステム。

【請求項 1 7】

請求項 1 3 乃至 1 5 何れか記載のシステムであって、該イベント信号が過渡電圧であることを特徴とするシステム。

【請求項 1 8】

請求項 1 3 乃至 1 5 何れか記載のシステムであって、該イベント信号が周期的に変動する電圧であることを特徴とするシステム。

【請求項 1 9】

請求項 1 6 乃至 1 8 何れか記載のシステムであって、該回路がRCネットワークを有することを特徴とするシステム。

【請求項 2 0】

請求項 1 0 乃至 1 2 何れか記載のデータ処理装置であって：

請求項 1 乃至 9 何れか記載の方法工程を実施するよう構成されるソフトウェア；

を有することを特徴とするデータ処理装置。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 3】

第1エラー識別段階はタイミング装置が発生する既知の公称時間間隔の測定を備える。この測定は時間間隔の正確な値を表す基準と比較される；当該差異はデータ処理装置とタイミング装置との特定の組み合わせについてのエラーである。タイミング装置のタイミング間隔は更に、（例えば、タイミング装置のタイミング素子を置換することによって）適合し、第2時間間隔の算定が行われる。好ましくは、この適合は所定のタイミング間隔群の1つにより（例えば、置換タイミング素子が所定の値群から選定され）、相当する基準値群を比較段階で、判定を応分に単純化させながら、用いることを可能にする。好ましくは、タイミング装置のタイミング素子がタイミング間隔を適合させるよう置換される場合、元のタイミング素子と置換タイミング素子との両方が正確である（すなわち、両方がそ

れらの公称値に対する狭い許容度を有する。) ; これによってエラーが時間間隔測定の各々について実質的に同様のままであることを徹底するのを促進する; 適切なタイミング素子の例は、(低成本である効果も有する)メタル・フィルム抵抗を有するが、これに限定されるものでない。第2算定時間間隔は更に、エラー値を用いて調節して第2時間間隔に対する更に正確な値を導き出し得る。この調節第2時間間隔値は更に、種々の値基準値、好ましくは上記の相当する基準値群、と比較される。当業者に明らかになるように、調節第2時間間隔のエラーがその相当する基準時間間隔のエラーに対して少ない場合、時間間隔は、間が近い(すなわち、多い)ほど、その解釈が容易である; これによって、同様に、より多くのコンフィギュレーション・データを測定毎に導き出す能力を提供する。この改良方法の効果は、第1既知時間間隔が測定され; この測定におけるエラーが導き出され、第2測定時間間隔を補正するのに用いられ、それによって第2測定を更に正確にし、データ処理装置のコンフィギュレーション・データを導き出すよう解釈され得るものであり、用いられ得る、考えられる時間間隔の数を増加させる。